

かんきつのミカンキイロアザミウマの薬剤感受性

施設で栽培を行う愛媛県試第28号では、**ミカンキイロアザミウマ**が問題となっており、**各種殺虫剤の感受性低下が確認**されている。加えて、令和3年度には一部地域の露地かんきつでも着色期の被害が確認されたことから、簡易手法により**各地の薬剤感受性評価**を行った。

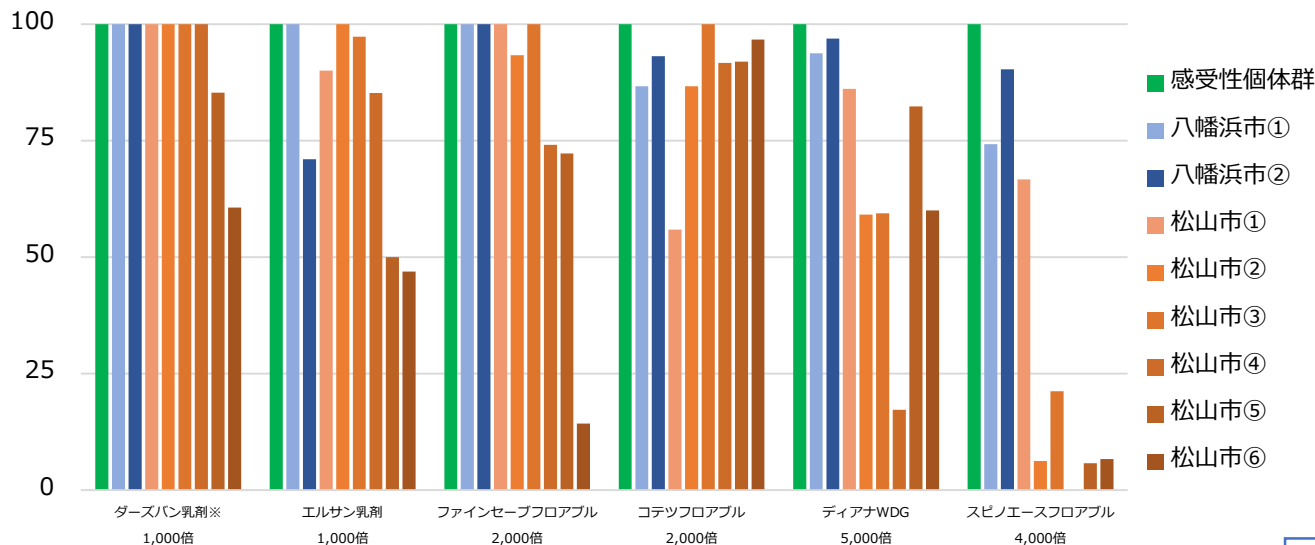


図 各園地のミカンキイロアザミウマ薬剤感受性

感受性個体群は果樹研究センター内のシロツメクサより採集

八幡浜市個体群は露地温州みかん園より採集

松山市個体群は施設愛媛県試第28号園より採集

※ダズバンDFでミカンキイロアザミウマに対して登録あり。



写真1 ミカンキイロアザミウマ雌成虫



写真2 簡易検定手法に使用したパスツールピペットを加工した吸虫管

寒天を内面に処理したパスツールピペット（香川県と徳島県が共同で特許を取得した「虫の保持装置及び虫の薬剤感受性検定方法（特許6653917）」）に各薬剤を処理した後、ミカンキイロアザミウマ雌成虫（約10頭×3反復）を吸引し、処理72時間後に生死を判定。

結果

- ・ダズバン剤の効果が高いが、一部園では感受性低下
- ・その他の剤も園地によっては効果不足
- ・特にスピノシン系殺虫剤（ディアナ、スピノエース）は多くの園で効果不足

今後の計画

- ・効果確認ができていない遅効的な薬剤について検討
- ・農薬のみに依存しない防除対策について検討